

常設展アーカイヴ 平成三〇年度 第二期

# 装丁で楽しむ北海道の文学

平成三〇年 七月三日(火)～九月二日(日)

常設展アーカイヴは、当館の所蔵資料を年に数回テーマを変えながらご紹介する小企画スペースです。平成三〇年度第二期は「装丁で楽しむ北海道の文学」として、北海道関連作家の本を装幀、口絵、挿絵などとともに紹介します。

シリーズ企画の第三弾で、今回は、昭和初期から現代までの十八作家四十六冊の本と、表紙絵、口絵原画二点をご紹介します。著者や作品の内容だけではなく、装幀や表紙絵などを手がけた顔ぶれも、画家、彫刻家、イラストレーター、デザイナーと、多彩です。ビジュアルな工夫が本の魅力を高めるために大きな役割を果たしていることがわかります。

北海道の才能あふれる作家たちによる文学世界と、すぐれた美術家たちの造形世界の出会いをお楽しみいただけましたら幸いです。

出品資料より

牧逸馬 『世界怪奇実話全集』 浴槽の花嫁』 中央公論社

1930

久生十蘭 『平賀源内捕物帳』 装丁：清水三重三 大日本雄

弁会講談社 1949 ①

本庄陸男 『白い壁』 装丁：村山知義 ナウカ社 1935 ②

三島由紀夫 『夏子の冒険』 装丁：猪熊源一郎 朝日新聞社

1951 ④

船山馨 『浅草慕情』 装丁：島炭夫 新太陽社 1948 ③

船山馨 『石狩平野』 装丁：口絵：佐藤忠良 河出書房

1967

佐藤忠良 『石狩平野』(船山馨著) 口絵原画

三浦綾子 『氷点』 装丁：福田豊四郎 朝日新聞社 1965

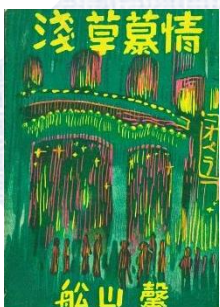
ほか



②



④



③



①

北海道立文学館 常設展示室内

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

電話011-511-7655

<http://www.h-bungaku.or.jp/>